

区分	委員意見	委員名	県回答
問 1 重点 施策 の 概要	<p>(P3総括) 「新しい生活様式」という言葉に注記があると良いと思います。結果として、さほど一般化していないので、なんのことを指すのかすぐに理解しにくいのではないかと思います。</p> <p>(P4 施策体系図) 良く整理されていてわかりやすいと思います。</p>	石田委員	「新しい生活様式」について、注記を付記いたします。
	<p>(P2,3実施状況の概要) 写真にキャプションを入れたほうが良いのではないかと。</p>	兼子委員	写真のキャプションを追記いたします。
	<p>(P2,3実施状況の概要) ・かながわ文化芸術振興計画の仕組みや体系などわかりやすく説明がされていた。 ・繰り返しになるかもしれないが、冒頭にマグネット・カルチャーとは何か、知事の想いを入れると目的がはっきりしてもっとわかりやすくなると感じた。</p>	倉林委員	「マグネット・カルチャー」の説明につきましては、P4の「施策体系図＜施策展開の基本的な視点＞」に記載しています。知事のコメントにつきましては、かながわ文化芸術振興計画の次期改定の際に、計画本体に記載することを検討いたします。
	<p>(P3総括) コロナ禍における文化芸術の総括をここに入れたのは良い判断。影響は計り知れないだろうが、数字の根拠がほしいところ。</p>	高田委員	P30に掲載しているアンケート結果や他団体が実施したアンケート結果を踏まえて記載しています。
	<p>(P3総括) 「一方で、「新しい生活様式」に沿った文化芸術活動のコミュニケーションの手段としてオンライン配信が模索され普及し、あらゆる人に自宅に居ながら様々な文化芸術を鑑賞する機会を提供することが可能となり、本県も多くの事業をオンライン配信にて実施したことで、<u>県内外のより多くの方々県民に鑑賞の機会を提供することができた。</u>… 今後も引き続き、コロナ禍にあっても、文化芸術の灯を消さないために、<u>民間の様々な文化芸術活動を支援するとともに、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期した上で必要な神奈川の文化プログラムを実施することで、伝統芸能の普及振興や共生社会の実現、人材の育成につなげ、文化芸術の振興を推進し県民が質の高い文化芸術活動を享受出来る環境作りに取り組む必要がある。</u>さらに、2021年に延期された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）の開催に合わせて実施した文化プログラムが、東京2020大会後もレガシー<u>として継承され、地域の継続的な活性化に向けた取組となるよう推進する必要がある。</u>」</p>	坪井委員	一部修正します。かながわ文化芸術振興計画等で定めている文言や表現等については、そのままとさせていただきます。
<p>(P2,3実施状況の概要) 年次報告書は県民を対象に発行されるのであれば、それぞれの事業の内容が記載されているwebサイトのURLも掲載してはいかがでしょうか。より具体的、立体的に内容を知ってもらえると思います。</p>	久野委員	今後検討いたします。	

区分	委員意見	委員名	県回答
問 2 重点 施策 1	<p>(P5 1 (4) 後世に残す伝統的な文化の記録保存) 可能であれば、報告書の整理をどのようにおこなわれたのか、もう少し詳細に記載があるとイメージしやすいですし、意義のある活動だとの認識が強められるのではないのでしょうか。</p> <p>(P6 3 今後の課題) 人口減少の影響などにより、地域において伝統的な芸能の継承者がいなくなるという課題が見て取れる。鑑賞者についても、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた活動の休止などにより、これまで以上に触れる機会が減少してしまった。複合的な原因が重なって価値共有が難しくなってしまったことで、伝統文化が失われていくおそれがある。</p> <p>原因は人口減少だけではなく、興味と関心の分散による伝統芸能への意識低下などもあると思います。コロナウイルスの影響は多大だだと思います。意味を強めるために、上記のような文の修正提案をいたします。</p>	石田委員	対応いたします。
	<p>(P6 2 施策の効果) 3行目に「県民の理解・認識を深めることができた」とあるが、できれば何らかのエビデンスがあった方がいい（特に年代別に分かれればそれも）。</p>	伊藤委員	相模人形芝居学校ワークショップでは「実際に人形を触ってみて、細部まで工夫が凝らされていることに驚き、人形一体には作者から演者まで様々な人の思いが込められていると感じた」、「人形の動かし方だけでなく、人形の材料や小道具の持ち方など、細かいところまで教えて頂いて、とても良い機会になった」等の感想が寄せられています。年次報告書にどの程度記載するかについては、今後検討いたします。
	<p>(全般) ・地域の伝統芸能が県民の共通の貴重な財産と条例にも記載がある通り、ワークショップ等の開催を精力的に取り組んでおり、評価できる。 ・コロナ禍により、オンライン配信の重要性も確認できたと思うが、「文化芸術の発信」の観点から、記録保存したものは県民に対し公開等できるとよい。 ・次世代を担う若者たちへ、伝統芸能に興味を持たせるために、知ってもらう機会を増やすのはとても重要であるが、そのあとの後継者等の育成も視野に入れるとわかりやすい。</p>	倉林委員	一部の事業（「リ・古典」等）については、記録動画を公開しています。後継者等の育成については、今後検討していきます。
	<p>(P6 2 施策の効果) 「事業をきっかけに、終了後も継続して民族芸能に取り組む生徒もおり」とあり、大変すばらしいことと思う。そのような生徒たちに対して、伝統芸能の団体が受け皿となっているのか、あるいは県が引き続き支援する仕組みとなっているのか、言及があればさらに良いと思う。</p>	鈴木委員	「こども歳時記」の事業の目的の一つとして、地域の伝統文化に取り組む子どもたちへの晴れの舞台を提供することが挙げられ、その公演に向けた稽古等により保存会活動の活性化に繋がるよう、県として支援しています。また、日本舞踊ワークショップでは、ワークショップ終了後も、お稽古を続けたい子ども向けに、月一回の日本舞踊講座が青少年センターで通年開催されており、隔年で紅葉坂ホールで行われる日本舞踊協会神奈川県支部の公演に出演しています。
	<p>(P6 2 施策の効果) 測定根拠があいまい。 ・県民の理解・認識を深めることができた ・一定の効果を得ることができた。</p>	高田委員	今後の参考といたします。
	<p>(P6 3 今後の課題) 「新型コロナウイルス感染症の影響下では、特に、体験型の企画を実施する場合は工夫しながら、県民をはじめ多くの人たちが県内各地域の伝統的な芸能を知る機会を持ち、その価値を共に考え知って大切に継承していけるような公演・ワークショップ等の事業の継続的な実施や、伝統的な芸能の記録を保存し、後世に伝えることを視野に入れた取組を継続して実施する。」</p>	坪井委員	対応いたします。

区分	委員意見	委員名	県回答
	(P5 1 (4) 後世に残す伝統的な文化の記録保存) 地域の伝統的な文化芸術の報告書、記録はどちらで公開されているのでしょうか。	久野委員	報告書については、現時点では公表をしていません。
	(P5 1 (2) 伝統的な芸能を支える技術・技能の継承者の育成・支援) 学校交流ワークショップを実施したとありますが、例えば、何人を対象に何回実施したなどと、大枠の数値を入れる具体的な成果のイメージがわくのではないのでしょうか。 また、これは参考意見ですが、相模人形芝居を対象として長く実施していますが、他にも様々な伝統芸能があるので、メニューを示して学校や生徒のリクエストをとってみてはどうでしょうか。その際に事前に映像記録をみてもらう方法もあると思います。映像記録の活用にもつながるものと思います。 (P5 1 (4) 後世に残す伝統的な文化の記録保存) 県が2015年度以降に実施した伝統的な芸能に係る事業について、「〇〇などの事業について」というように、一つ二つ具体的な事業名を入れると分かりやすいと思います。	平本委員	(P5 1 (2) 伝統的な芸能を支える技術・技能の継承者の育成・支援) 今後作成する成果一覧に記載いたします。 ご提案につきましては、検討いたします。 (P5 1 (4) 後世に残す伝統的な文化の記録保存) 対応いたします。
問 3 重点 施策 2	(P7 1 (3) 文化芸術にかかわる人材の育成) 青少年センターにおける、マグカルシアターにおいて、→ 県立青少年センターでのマグカルシアターにおいて、	石田委員	「青少年センター」で統一します。
	(P8 2 施策の効果) 最初の段落は具体的にどの施策のことを述べているのか。 「優れた演劇」とあるので「マグカルシアター」や「シニア劇団」を指しているものと推察できるが、それらは「鑑賞の機会」の提供というより、前半の「創作・発表の機会」に該当するが、「鑑賞の機会」はむしろアウトリーチ施策の効果になるのでは。 いずれにせよ後の3つの段落で対象別の施策が述べられているので、この段落はなくていいと思われる。	伊藤委員	対応いたします。
	(P7 1 (4) 文化芸術による共生社会実現に向けた環境づくり) 「シニア劇団」について、具体的な地域、もしくは劇団の数の記載がある方がいいと思います。	井上委員	今後作成する成果一覧に記載いたします。
	・共生社会実現に向けた環境づくりについて、横須賀でもシニア劇団の取り組みを進めていただき大変ありがたい。 ・各エリアで立ち上げたシニア劇団を各エリアへの還元のしかたなど協議検討させてほしい。	倉林委員	シニア劇団を各エリアへの還元のしかたについて、協議させていただきます。
	(P8 2 施策の効果) 「シニア劇団」のみアンケートの数字が引用されている。他の事業ではアンケート調査がなかったのかもしれないが、実施回数、参加者数など何らかの数字があれば、施策の効果を実感しやすいのではないか。	鈴木委員	今後作成する成果一覧に記載いたします。
	(P7 1 (2) アウトリーチやワークショップ等の鑑賞・体験活動の充実) 後ろから2行目。実施するとともに実施するとともに	高田委員	対応いたします。

区分	委員意見	委員名	県回答
	<p>(P7 1 (3) 文化芸術にかかわる人材の育成) 何故それらの講座やインターン等が「国際的に通用する真の」プロフェッショナル人材育成につながるのか、不明。記載するのであれば、何故それらが国際的に通用する程の価値のある講座・インターンプログラムであったかの説明が必要。</p> <p>(P8 3 今後の課題) 新型コロナウイルス感染症の影響により、アーティストや文化団体だけでなく、アマチュアを含む一般の方についても創作・発表の機会が減少した。今後は様々な環境下でも継続して文化芸術活動を行うことができるよう、オンライン配信等による創作活動の支援や普及を進める必要がある。</p> <p>また、青少年の文化芸術への関心が高まるとともに、<u>趣味・趣向興味</u>が多様化してきているため、県民のニーズを把握し事業に反映していく必要がある。</p> <p>(P8 4 今後の方向性) 年齢や障がい、国籍や人種などにかかわらず、子どもから大人までのあらゆる人が文化芸術活動を行うことができる環境づくりのため、創作活動の支援や発表の場の提供を引き続き行っていくとともに、アウトリーチやワークショップ等については、県立文化施設や関連するNPO等のノウハウやネットワークを生かして、学校や障がい者・高齢者施設等と連携するとともに、オンラインでの実施方法も検討しながら、県内全域での実施を目指す。</p>	坪井委員	<p>(P7 1 (3) 文化芸術にかかわる人材の育成) KAATでは、これまで「舞台技術インターン」「劇場間人材交流」等の取組において、海外留学経験のある高度な知見を有する舞台技術スタッフのもとで、国内外に通用する作品創造の過程や創作手法を学ぶ機会を提供することによる人材の育成に取り組んできたほか、「劇場運営インターン」では、TPAMで来日したカンパニーとの交流を通じて、公演制作の一部を体験することにより、国際的な視野を持つことのできる人材の育成に取り組んできました。昨年度は新型コロナウイルス感染症のまん延により海外からの舞台関係者の来日が困難であったため、このような取組みを実施できませんでしたが、TPAMにおいて劇場運営インターンを受け入れ、感染拡大防止に留意しつつ受付業務や打合せの立ち合いなどの制作補助業務を体験する機会を提供しました。今後感染症が落ち着いた際には、国際的に通用するプロフェッショナル人材の育成に向け、再度取組を検討していきます。また、年次報告書については記載を変更しました。</p> <p>(P8 3 今後の課題) (P8 4 今後の方向性) 一部対応いたします。かながわ文化芸術振興計画等で定めている文言や表現等については、そのままとさせていただきます。</p>
問 4 重点 施策 3	<p>(P9 1 (2) 三県省道やベトナム等の文化交流事業の推進) ベトナム文化等交流事業や三県省道スポーツ交流事業を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い実施しなかった。→ 実施することができなかった。あるいは 実施がかなわなかった。</p> <p>(P9 1 (1) 神奈川の文化芸術の海外発信) TPAMの場合、具体的のどのように「海外発信」したのか(オンラインならYouTubeなど具体的な方法を記されたい)。</p> <p>(P9 1 (4) 関係団体等との連携) 国際交流財団が県の近代美術館と組んで行っているMULPAのYouTubeによる在住外国人アーティストの紹介プロジェクト https://www.youtube.com/channel/UCWL0KF0ujFcJgsM2t3M2nUw なども事例として入れてもいいのでは。</p> <p>(全般) 今後も神奈川発の芸術文化の発信を進めてほしい。</p>	石田委員 伊藤委員 倉林委員	<p>対応いたします。</p> <p>(P9 1 (1) 神奈川の文化芸術の海外発信) 対応いたします。</p> <p>(P9 1 (4) 関係団体等との連携) 検討いたします。</p> <p>引き続き努めます。</p>

区分	委員意見	委員名	県回答
	<p>(P9 1 (3) 多文化理解の推進) 多文化共生の地域社会づくりに向け、多文化理解及び尊重を推進するため、県立地球市民かながわプラザにおいて、展示学習などの学習センター事業、映像・図書資料の収集提供や外国籍県民相談等の情報・相談センター事業やNPO等活動支援などのサポート・ネットワーク事業等を実施した。</p> <p>(P10 3 今後の課題) また、若い世代やより多くの外国籍や外国にルーツを持つ県民が参加・し交流できる事業を実施し、多文化理解及び多様性の尊重の促進に取り組む必要がある。</p> <p>(P10 4 今後の方向性) また、関係団体等と連携しながら、より多くの青少年や外国籍や外国にルーツを持つ県民に参加を促せるような多文化共生及び多様性の尊重をテーマとした事業を企画・開催することによって、国際色豊かな本県の多文化理解並びに共生社会を推進する。</p>	坪井委員	一部修正します。かながわ文化芸術振興計画等で定めている文言や表現等については、そのままとさせていただきます。
	<p>(P9 1 (3) 多文化理解の推進) 本文中に説明がないため、「タブラ体験ワークショップ」の写真が(3)の文章の資料であることが、一見してわかりにくかったです。</p>	中村委員	対応いたします。
	<p>(全般) 国際文化交流のTPAMや多文化理解の推進についても、コロナ禍の中、どのような工夫をして開催をすることができたのか、報告書に記録すべきではないでしょうか。現在の文章だと平時をなにも変わらず実施されたかのような報告に読み取れます。コロナ再燃が想定される現在、国際交流は依然困難が状況が続くと思われます。そのような状況を想定してのいくつかの対処プランが必要なのではないのでしょうか。「今後の方向性」には平時しか想定されていないように読み取れます。</p>	久野委員	対応いたします。
問5 重点施策4	<p>(P11 1 (1) 文化プログラムの展開とレガシーの定着) 認証したプログラムの(コロナ禍での)実施状況や、「レガシーの定着」(つまり継続化や今後の展開等)の具体的内容についても触れて欲しい。</p> <p>(P11 1 (2) 多言語化対応) 英語表記は記されているが他の言語への対応はどうか(まだあまり進んでいないようなら、3の「今後の課題」で目標を立てて記して欲しい。)</p>	伊藤委員	<p>(P11 1 (1) 文化プログラムの展開とレガシーの定着) 認証したプログラムの実施状況については、件数が多く、取りまとめていないため、記載することができません。 レガシーの定着については、令和4年度の予算に関わる内容のため、掲載を見送らせていただきます。</p> <p>(P11 1 (2) 多言語化対応) 成果一覧を今後作成いたします。</p>
	<p>(全般) オリンピックを契機に発信できた文化芸術関係の情報を、コロナ明けでも引き続き積極的に発信できればと思う。</p>	倉林委員	引き続き努めます。
	<p>オンライン上でのマガカル事業の情報発信は、素晴らしいと思う。報告書にもURL(https://magcul.net)と二次元コードを掲載してはどうだろうか。今後の情報発信の方向性として、特に海外からの観光客向けに、伝統文化のイベントをタイムリーに更新されると良いと思う(現在は新型コロナウイルス感染症のため情報更新が止まっているようです)。</p>	鈴木委員	対応いたします。海外からの観光客向けには外国人向け特集記事で対応いたします。

区分	委員意見	委員名	県回答
	<p>(P11 1 (2) 多言語化対応) 多言語情報紙「こんにちは神奈川」の発行にあたり、記事や発行趣旨に合ったイラストを盛り込み、より適切な表現になるよう多言語の翻訳チェックを行い、<u>外国籍及び外国にルーツを持つ県民を含む非日本語話者等</u>が手取りやすい紙面となるよう工夫をした。 また、県の文化芸術ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」において、外国人向け特集記事を作成し、<u>ネイティブによる多言語翻訳</u>を行うとともに、国内外向けのインターネット広告を通年で展開した。</p> <p>(P12 3 今後の課題) また、2021年に延期された東京2020大会の開催に合わせて、様々な文化プログラムをオンライン配信等による展開してきたが、その後も<u>レガシーとして地域の継続的な活性化に向けた取組を推進する必要がある。</u></p> <p>(P12 4 今後の方向性) 今後も引き続き、「神奈川文化プログラム」の認証により、官民一体となってオール神奈川で文化プログラムに取り組むとともに、文化プログラムを通じて構築された市町村や関係団体等とのネットワークを生かし、東京2020大会の<u>レガシーを契機としてより充実したマグカル事業を展開していく。</u> その上で、あらゆる人に情報が伝わるよう、県内に訪れる外国人や外国籍及び<u>外国にルーツを持つ県民を含む非日本語話者等全ての県民に必要な情報が効果的に提供できるよう努める。</u></p>	坪井委員	一部対応いたします。かながわ文化芸術振興計画等で定めている文言や表現等については、そのままとさせていただきます。
	<p>(P11 1 (1) 文化プログラムの展開とレガシーの定着) (P12 4 今後の方向性) 東京2020大会の神奈川県で実施された文化プログラムで、何がレガシーをして残ったと評価されているのか、具体的な記述がありません。 今後の方向性に「レガシーとしてマグカル事業を展開していく」とありますので、何を不得、何を残していこうと考えているのかももう少し記述が必要ではないでしょうか。</p>	久野委員	2020年度の年次報告書のため、2021年度に実際に実施した文化プログラムの記載を詳細に記載しておりません。 また、今後のマグカル事業の展開は令和4年度の予算に関わることであるため、掲載を見送らせていただきます。
問6 重点施策5	<p>(P14 3 今後の課題) (P14 4 今後の方向性) 文化施設の改修期間中の活動（今回はコロナ禍もありオンラインの活用が効果をあげたが、平常時の場合は）、例えば県下の市町のホールや文化芸術団体との共同事業やアウトリーチ等の展開を進めるため、「人材育成や情報発信力の強化」に加え、県下の文化施設等との協力関係の構築も考えられるのではないかと。</p> <p>(P13 1 (1) 県立文化施設の計画的な維持・保全・拡充) 「新型コロナウイルス感染症対策のため、光回線配信整備工事を実施した」とありますが、これは今後の活用を見据えた整備と思われるので、「新型コロナウイルス感染症対策を契機に、多様な発表の場を確保するため、光回線配信整備工事を実施した」のような文言の方がいいと思います。</p> <p>(全般) ・オンラインでの企画は続けてほしい。 ・施設の維持管理はどこの自治体も苦慮するところであるが、県民の文化活動を維持するためにも、なるべく維持できるように努めてほしい。</p>	伊藤委員 井上委員 倉林委員	指定管理施設において、他の自治体や県内市町村（ホール）との交流がありますので、今後作成する成果一覧に記載します。 対応いたします。 引き続き努めます。

区分	委員意見	委員名	県回答
	(P13 1 (1) 県立文化施設の計画的な維持・保全・拡充) 施設の光回線配信整備は有用だった。	高田委員	
	(P14 3 今後の課題) 人材育成や情報発信力の強化についても、市町村や文化芸術団体と連携・協力をしながら、限られた地域だけでなく、より多くの地域からあらゆる人が事業に参加できるよう、また、 <u>オンラインの利点を生かしたによる「新たな生活様式」</u> に適應した取組を推進する必要がある。 (P14 4 今後の方向性) 情報発信については、「マグカル・ドット・ネット」において、外国人並びに非日本語話者向けに多言語化翻訳記事の作成を行うなど、国内外向けのインターネット広報をさらに展開するとともに、市町村や文化芸術団体と連携を行い、県内外のあらゆる人に情報が等しく伝わるよう、継続して強化していく。	坪井委員	一部対応いたします。
	(全般) 施設の長寿命化のために今後積極的に実施していく具体的な計画は何でしょうか。オンライン対応の施設改修が速やか、かつ適切に行われ利便性が向上したことは、文化施設の発信力が強化され大変良いことだと思います。その一方で、文化施設から足が遠のいてしまっている観客を取り戻す施策も必要だと思います。こちらも今後の課題ではないでしょうか。	久野委員	今後の方向性に追記します。
	(P13 1 (4) 情報発信の強化) 重点施策1の、1- (1) 記載のリ・古典オンライン配信視聴回数694, 553回や重点施策4の、1- (1) 「神奈川文化プログラム」認証イベント486件などに示されている、具体的な数字と同じように、バーチャル開放区について細かな数字は必要ないが、全体の応募件数255件や再生数358, 022回などを入れると、アピール度も上がり、分かりやすく、読み手も理解しやすいのではないのでしょうか。 28ページに具体の数字はありますが、結果総括の文章の中に入っていると、より具体的に説得力のあるものになると思います。	平本委員	対応いたします。
問7 基本的な施策	(全般) これまでの審議会でも指摘されていたことだが、(特に重点施策ではあげられていないが) 美術や文学の分野での取り組みについての報告が欲しい。 (P16 1 (5) 子どもの文化芸術活動の充実) 藤野芸術の家の活動や、近代文学館での活動が紹介されているが、他には無かったのか。 (P19 2 (1) 文化芸術に関する交流の推進) アーティスト・イン・レジデンス推進事業についても、もう少し具体的な記述が欲しい。 (P19 2 (3) 文化資源の活用) 方向性として、「県内の文化資源の発掘に努め」とありますが、具体的にどのような発掘を行っているのか、報告書の中では見えにくい気がします。	伊藤委員 井上委員	(全般) 美術分野の記載を増やすようにします。 文学分野については、現状では近代文学館のみです。新型コロナウイルス感染症の影響により事業数が減少しております。 (P16 1 (5) 子どもの文化芸術活動の充実) 対応いたします。 (P19 2 (1) 文化芸術に関する交流の推進) アーティスト・イン・レジデンス推進事業については、今後作成する成果一覧で記載します。 今後作成する成果一覧で記載します。

区分	委員意見	委員名	県回答
	(P20 2 (4) 景観の形成) 具体的な場所などを例示できればさらにわかりやすい。	倉林委員	今後作成する成果一覧で記載します。
	(P21 3 (3) 情報通信技術の活用) 「新しい生活様式」においては、文化芸術活動の発信・鑑賞にも情報通信技術が活用されるようになっているので、【施策の方向性】のところでは言及があったらよいのではないかと。	鈴木委員	【施策の方向性】は計画に記載している文章となりますので、次期改定の際の参考といたします。
	(P17 1 (6) 学校教育における文化芸術活動の充実) 心技体+創ワークショップは、「」で括って、「心技体+創ワークショップ」と表記していただく方が、わかりやすいように思いました。 (P22 3 (4) 文化芸術活動に対する支援の促進) かながわキントロウ寄附金(ふるさと納税)を活用した、文化芸術に触れる機会が少ない方々に対する鑑賞機会の提供支援は、「1 (2) 県民の文化芸術活動の充実」にも含まれる事業のように思いました。大変興味深い事業なので、後の機会に実施状況の詳細もお聞きできればと思います。	中村委員	対応いたします。
	(P15 1 (2) 県民の文化芸術活動の充実) 県民ホールや音楽堂等において、オペラやバレエ、クラシック音楽コンサートといった様々なジャンルの舞台芸術の公演を実施し、優れた文化芸術の鑑賞機会を提供した。 (P19 2 (3) 文化資源の活用) 県内の文化資源の発掘に努め、その具体的な活用方策をその経済・社会・文化的等多角的に検討する。また、地域の活性化等に活用可能な文化資源については、市町村、文化芸術団体、芸術家、企業などとの連携により有効活用を努めるとともに、その魅力・効果を広くPRするための情報発信に取り組む。 →文化資源の有効活用に関し、観光や地域活性・まちづくり、福祉や環境保全等の領域においても具体的に記載できる事項はありませんか。既に他部局と連携して取り組んでいる事例及びその拡充について等?SDGsに関連してありませんか? (P20 2 (4) 景観の形成) 今般の文化資源の議論に欠かせない点、例えばSDGsや気候変動、生物多様性等への目配りに関連する姿勢はありますか。(P21以降も同様。) (P21 3 (3) 情報通信技術の活用) 「多言語」には視覚障害者のための読み上げ機能もありますか。ある場合は記載。 (P22 3 (3) 情報通信技術の活用) 県立文化施設に保存・保管されている文化芸術にかかわる資料について、デジタル化、データベース化を図り、アクセスの至便化を図ると共に利用者の利便性を高めるべく情報へのアクセシビリティ及び透明化にかかる取組を推進する。	坪井委員	一部対応いたします。かながわ文化芸術振興計画等で定めている文言や表現等については、そのままとさせていただきます。 (P20 2 (4) 景観の形成) SDGsについては、県の総合計画に記載をし、該当のプロジェクトに関連付けています。(P45) (P21 3 (3) 情報通信技術の活用) 視覚障害者のための読み上げ機能はありません。
	(全般) 主な施策の内容に、代表的な事業の紹介を写真またコラムなどを使って紹介するのはいかがでしょうか。より内容が生き活きと伝わると幸いです。	久野委員	今後検討いたします。

区分	委員意見	委員名	県回答
問 8 新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症 へ の 主 な 対 応	(全般) 新型コロナウイルス感染症に関する記録は今でなければできないことだと思います。正確にできるだけ多くのデータを収集、記録していただければ幸いです。現状のままでも大変参考になるデータだと考えております。	石田委員	今後もデータ収集等に努めます。
	(P23 1 新型コロナウイルス感染症に関する県の基本方針等) 神奈川県の新型コロナ感染症への対策（基本方針等）が非常に細かく丁寧に記載されていて、よく理解できた。	伊藤委員	(P30 4 文化芸術活動団体等へのアンケートの実施) 今後の参考といたします。
	(P30 4 文化芸術活動団体等へのアンケートの実施) アンケートもかなり詳しい内容で、新型コロナウイルス感染症が文化芸術団体におよぼした影響がかなり分かった。ただアンケート対象が「県の電子申請システムの活用」のため、文化施設等の利用が多い分野・活動が中心になってしまい、活動領域に偏りがみられる。また、コロナ禍の影響について、経済的な側面が大きいことはもちろんだが、それ以外の面（交流や後継者等の育成、伝統の継承・保存など）についても知りたかった。	兼子委員	アンケート調査について、県内市町村の文化主管課を通して広く一般に案内したほか、県でも多数の関係団体に送付しました。幅広くアンケート調査をしたため、母数は不明です。
	(P30 4 文化芸術活動団体等へのアンケートの実施) アンケートの対象者（アンケートを依頼した対象）、アンケートへの回答率などが示されるとよい。	倉林委員	今後検討いたします。
	(全般) WITHコロナを経験してオンラインなどの発信方法を身に着けたが、今後AFTERコロナとして、文化芸術活動はコロナとどのように付き合い続けていくか、県民に対し示していく必要がある。	鈴木委員	対応いたします。
	(全般) 困難な状況の中で、動画コンテストの実施、補助金の交付、ニーズを知るためのアンケート調査など、できることを精いっぱいやっていたことがわかり、感謝です。	中村委員	内容を確認の上、精査します。
	(P28 2 バーチャル開放区) バーチャル開放区の応募動画が見られるようURLを追加してほしい。	久野委員	今後検討いたします。
	(P23 1 新型コロナウイルス感染症に関する県の基本方針等) 基本的に県の動きを記録しておく趣旨であることは理解していますが、参考情報として、県が影響を受けた国の動きに抜け漏れがないか、気になりました（例えば、令和2年2月の厚労省の要請や、文化庁の動きなど）。		

区分	委員意見	委員名	県回答
	<p>(全般) 2020年度は、文化芸術の全てにおいて新型コロナウイルス感染症の災禍が甚大な影響を及ぼした年であることは、明らかですので、IVの1～4について、冒頭に概要をまとめて書いたらどうでしょうか。</p> <p>(P29 3 神奈川県文化芸術活動再開加速化補助金) (4) 採択件数265件の内訳を入れると、全体がより分かりやすくなるのではないのでしょうか。音楽○件、演劇・舞踊○件、伝統芸能○件など。</p> <p>(P30 4 文化芸術活動団体等へのアンケートの実施) アンケートの詳細な分析と今後の施策への反映などについて、今後まとめてもらいたいと思います。</p>	平本委員	対応いたします。
問9 報告書全体	<p>施設名などの記載方法の統一などにご配慮いただくと良いかと思えます。「県立」の記載有無などが散見されるようです。</p> <p>Vの「進行管理のための参考指標等」は、関係者以外にはなかなか分かりにくいものであるが、特に2020年度はコロナ禍もあり、KPIの目標値を大きく下回る取組が少なくない一方、ほぼ維持ないし増加している取組も見られる。できればA, B, Cの実績表の下に、解説文があると少しは分かりやすくなると思われる。</p> <p>参考指標の中には団体数の値などが記載されていますが、認証や選定を経た限定的な数値であり、県内の文化資源の総体を俯瞰できるような指標が見られないのが少し残念です。 たとえば、今後、県内の文化団体の活動や障害者・高齢者団体等における文化活動について、現況調査などを大規模に行い、神奈川県のもつ文化資源の全体像をある程度明確にした上で、具体的な活用方法を検討する、というような方向性が報告書内のどこかに見られるとより良いのではないかと考えます。</p> <p>表紙の写真2枚が、新型コロナウイルスと戦った2020年度を象徴していて、この報告書に相応しいと思いました。</p> <p>コロナに対する ・コロナ対応にかかわる ・基本方針の変遷 ・芸術文化団体アンケート は、再生に向けた基礎資料になる。 アンケート分析は、ダイジェスト版を作るなどして端的に分かりやすくしたい。</p>	石田委員 伊藤委員 井上委員 鈴木委員 高田委員	<p>対応いたします。</p> <p>対応いたします。</p> <p>今後の参考といたします。</p> <p>今後の参考といたします。</p>

区分	委員意見	委員名	県回答
	<p>○「年齢や障がいなどにかかわらず」 「年齢や障がい、国籍や人種などにかかわらず」と明記。多様な県民を有する神奈川県において、マイノリティも包有するという包摂感が出ると思料。P41, 42等</p> <p>○文化資源 上述の通り、文化資源の議論においては、対象は文化芸術に留まらず、また効果は経済のみならず社会・文化的側面も重要。観光や地域活性・まちづくり、福祉や環境保全等にも目配りが必要と思料。</p> <p>○「SDG s との関係について」 ご参考まで、ユネスコ等国連機関において、文化芸術は①SDG s の17ゴール全てと関係する、②気候変動と生物多様性等の地球規模の課題と連動、することを前提に議論されています。</p>	坪井委員	今後の参考といたします。
	<p>写真やエピソードをまとめたコラム的な読み物などが、挟み込まれていると一般の県民の方や、事業に関連した文化芸術従事者の方たちも読みやすい報告書になると思います。読み手を想定した編集の工夫をもう少ししても良いと思いました。</p> <p>関連事業や概要のページのリンクも掲載すると良いと思います。特に、webに公開する際には、リンクがあると便利です。</p>	久野委員	今後の参考といたします。
問 1 0 報 告 事 項	<p>コロナ禍における様々な取り組みへの県の総力をあげて尽力されたことがよくわかります。県の資源がうまく活かされた事業など、明らかにオンラインでのアクセスも多くなっています。実施成果を県内外への発信に努めていただければと思います。</p> <p>ロジックモデルについては今後も精査していくことが肝要かと思えます。</p>	石田委員	<p>発信に努めてまいります。 現在、共生共創事業のロジックモデルの見直し作業を進めており、次回の審議会でご議論いただく予定です。</p>
	<p>○共生共創事業のロジックモデル アウトカムが数値だけになっているため、2020年度のように（2021年度もたぶん同様と考えられる）コロナ禍の影響が強く出た場合、ほとんど意味をなさなくなってしまっているため、短期にかんしては現場の声を取材してのコメントの記載や、中期の場合は3年目の終わり（2021年度末）あたりに意識の変化を定性的に把握する調査も必要ではないか。また中期では、発表者、鑑賞・体験者だけでなく、仲介者というか事業の実施者（基本的に芸術文化財団担当者になるが、可能であれば外部の協力団体・協力者も含め）の問題意識や経験知の変化も付け加えた方がよいと思われる。</p>	伊藤委員	現在、共生共創事業のロジックモデルの見直し作業を進めており、次回の審議会でご議論いただく予定です。
	<p>・審議会は、オンラインミーティングで実施できないのでしょうか？ もちろん対面がもっとも意見を出しやすいと思いますが、書面開催でなくオンラインミーティングであれば、他の委員の意見に触発されたり、質問や回答を聞きながら、新たな気付きが生まれたりといったことがあり、意見が出しやすく、より深い議論ができるように思います。 コロナの状況が刻々と変化するなか、また技術的にも難しい問題もあるかと思いますが、ご検討ください。</p>	兼子委員	次回の審議会は新型コロナウイルス感染症の影響を見極めつつ、対面での実施を予定しています。

区分	委員意見	委員名	県回答
	文化芸術分野の様々な施策について、神奈川県で先進的に進めている事業を県内市町村に還元できるようにしてほしい。良いところは積極的に県内の様々な場所で、地元の担い手により実施できるようになると更に文化芸術活動が浸透すると思う。	倉林委員	定期的に市町村担当者会議を開催しており、県の施策は、そうした場を通じて、市町村へ情報提供や意見交換等行っています。引き続きそうした会議を通じて、市町村へ県のノウハウを伝えていきます。
	文化芸術の議論において、以下の点に一層配慮が必要と史料いたします。 ○マイノリティの包摂 ○文化芸術活動における国際的認識 表現の自由や文化権、アーティストや文化従事者の社会的地位等については、国連人権宣言やユネスコ勧告等の理念が国際的な文化芸術活動において通底している（あるいは仮定されてる）ことから、交流活動およびオーディエンス教育・普及等においてもそれらの知識及び理解醸成が一層求められる傾向 ○気候変動や生物多様性等、地球規模の課題への取組 →現在、COP26関連イベントでも「持続可能な社会における文化芸術の役割」「エシカルな文化芸術活動とは」「環境破壊と文化芸術」等、テーマに議論されています。	坪井委員	今後の参考とさせていただきます。
	資料1-4のロジックモデルについて 母集団の多い高齢者事業の充実が理解、評価できます。 一方で共生共創事業が始まった経緯を考えると、図の左側・アウトプットでは、障害者主体事業が一番上に置かれるのがよいのではと思いました。 細かなレイアウトの話ですが、そうした見せ方1つでも、障害者のことを県がきちんと考えているという姿勢を見せるのが大切だと思います。	中村委員	現在、共生共創事業のロジックモデルの見直し作業を進めており、次回の審議会でご議論いただく予定です。
	2020年度は新型コロナに見舞われ、皆様には大変なご苦労があったと推察いたします。 そのような中でも、文化芸術の推進の足を止めることなく、様々な工夫のもと事業を推進いただき、敬意を表します。 残念ながら、コロナの完全収束はまだ望めません。今後の方向性に欄においては、2020年度の新型コロナ対策で学んだことを活かし、対応策についてもシミュレーションしておくことが必要ではないでしょうか。	久野委員	今後の参考とさせていただきます。
	共生共創事業の枠組みについては、従来の高齢者、障がい者という枠組みをもう少し緩やかに捉え、LGBTQ+などのジェンダーフリーに向けた取組み・事業を包括したものになることを期待します。	山田委員	今後の参考とさせていただきます。